

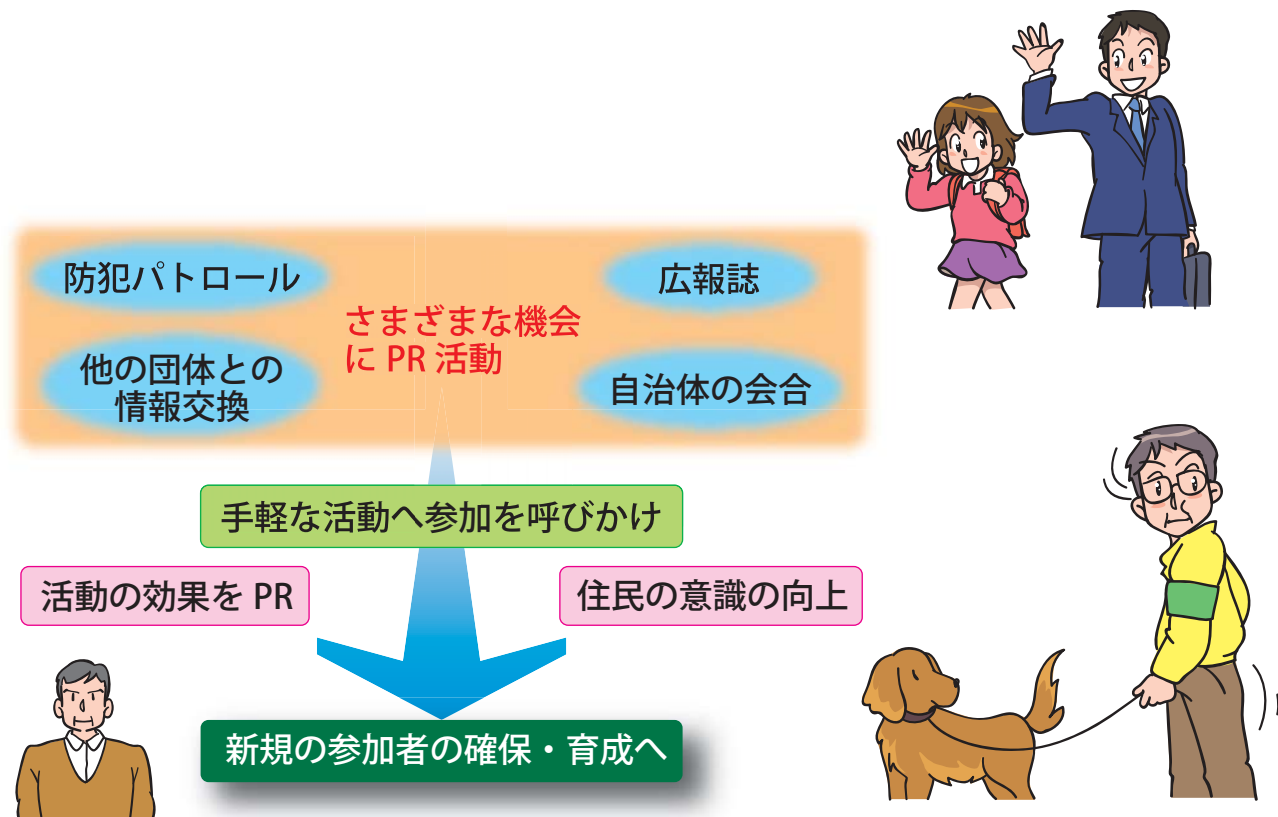
# 13

## 防犯活動の推進

### 人材育成の第一歩

地域住民一人ひとりが「地域の子どもは地域で守る」「自分たちのまちは自分たちで守ろう」という意識を持ち、積極的に見守り活動や防犯パトロールなどに参加することが理想ですが、なかなか実現できていないのが現実です。自治会の会合や広報誌などいろいろな機会を通じ、安全は地域住民で作上げるものであること、住民それぞれが主役であることを説明し協力を求めることが大切です。

また、防犯パトロール中や見守り活動などの際に出会った人へあいさつを積極的に行えば、地域活動のPRにもなり、地域住民の防犯意識の向上につながります。また、他の地域で既に活動しているグループと情報を交換することによって、より効果的な活動を展開することもできます。



さまざまな機会を通じ活動をPRしよう！

- 規準表 <46a> 地域の関係機関と連携し、自主防犯組織の結成および自主防犯活動の活性化を支援することができる。
- <52b> 地域から信頼され、責任を持って活動できる。
- <51a> 活動を地域全体に広げ、意識を持続させることができる。
- ねらい   ①防犯活動を行う際に地域に呼びかけ、協力を得ることができる。
- ①防犯活動に積極的に参加し、地域に信頼されている。
- ②地域の様々な行事に参加し、地域に信頼されている。
- ①防犯意識を高揚、持続するための方法を説明できる。

13

## イベントを企画しよう

校区の中に組織されている自治会やPTA、体育振興会、少年補導委員会、民生児童委員会など各種団体と連携・協力し、夏祭りやスポーツ大会、餅つき大会、ウォーキング大会など多くの地域住民が参加しやすいイベントを企画してみましょう。こうした地域行事がきっかけとなって、住民同士のコミュニケーションが高まり、顔見知りが増えて、見守り活動や防犯パトロールなどにも誘いやすくなります。また、そういった活動に積極的に参加していただいた方やPTAの役員を経験した若い世代の人達に、引き続き地域の各種団体の役割を引き受けてもらえるような環境を整えることも大切です。こうした環境を整えることで、団体同士の協力体制ができ、安定したまちづくりが進んだ地域も存在します。



地道に根気よく人と人とのコミュニケーションを進めていくことが、人材育成への近道だといえそうです。

 **ビデオ教材** (ビデオ→ 防犯活動の推進)

※ビデオを見て防犯活動を推進していくポイントをまとめてみましょう。

## Column

### 簡単にできる子どもの安全・防犯活動

#### 小さな見守り活動

子どもたちの登下校時に家の周りの掃除や草花の手入れをしながら「おはよう」「おかえり」と声をかけるのも、立派な見守りです。また、犬の散歩や買い物など普段の活動を「意識して」登下校の時間帯に行うことで、子どもたちの安全確保に大きく役立ちます。

#### あいさつからの地域防犯

日常的に住民同士のあいさつ(声かけ)なども高い効果があります。犯罪者は、声をかけられたり、見られたりすることで犯行をあきらめるというデータがあります。お出かけの際も、目配りやあいさつをすると、防犯に効果があります。

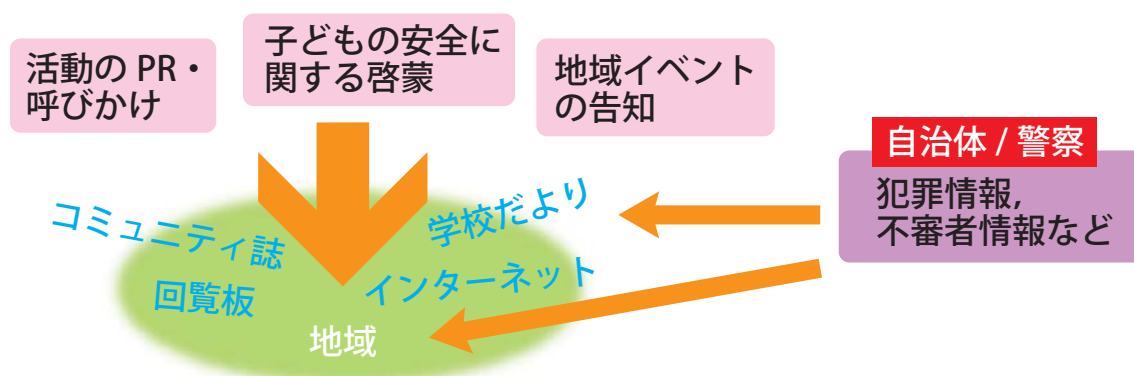
# 地域の防犯情報の共有

## 防犯情報の発信

安全・安心なまちづくりを推進するためには住民一人ひとりが日常生活の中で「できるときにできることから」実践することが重要です。そこで、犯罪の起こりにくい環境づくり，子どもの安全対策，防犯活動の進め方などの情報を伝達することが必要です。また，見守り合う関係を強化し，防犯にも大きな効果があるといわれている，公園や道路の清掃活動や放置自転車の整理活動といった地域の環境を維持する活動，地域でのあいさつ運動や花いっぱい運動など，まちづくりを活性化する活動などに参加・協力を求める情報なども発信する必要があります。犯罪の発生状況などは，交番や駐在所などで発行している広報紙を自治会組織などを通じて住民に広く配布するようにします。



警察や自治体が地域で起きた犯罪や不審者情報をインターネットのWebサイトや電子メールで配信しています。任意でアドレスを登録して情報を取得することができます。地域にとって有益な防犯情報は，タイムリーに，また繰り返し発信することが重要です。情報を伝達したり防犯活動に対する啓発を行ったりするために，コミュニティ誌，回覧板，学校だより，インターネットなどを大いに活用しましょう。



自分たちの活動，地域のイベント，子ども安全に関する啓蒙以外にも，警察・地方自治体からの情報も取り入れ情報を発信しよう！！

規準表〈61a〉 地域の防犯に関する情報を責任を持って発信することができる。

- ねらい  ②地域住民に対する防犯対策など、各種情報の臨時・定期的な情報伝達ができる。  
 ③地域にとって有益な防犯情報をタイムリーに発信することができる。

## 情報誌、福祉掲示板を使った情報の発信

情報誌には、地域の防犯活動や対策、啓発活動の様子、危険箇所、犯罪状況など幅広い情報を掲載する必要があります。また、住民の多くの方々の目に触れなければなりません。防犯活動を実際に行っている方々と常に連携し、正しい情報を発信することが大切です。また、住民の方から有益な防犯情報を得ることもあります。警察や行政とも連絡を取り合い常に新しい情報を取得するようにしましょう。

配布にあたっては、自治会組織などを通じて全戸に配布することができるように協力を要請します。独自に情報誌を発行することが理想ですが、無理な場合には、既刊のコミュニティ誌や学校だより、PTA 会報などに記事の掲載を要請してみるのも一つの方法です。

また、情報誌と同様に地域に設置してある福祉掲示板も情報発信を行うのに有効な手段の一つです。イベント参加募集や地域への啓蒙ポスターを掲示することで、多くの人の目にとまり、防犯効果も生まれるでしょう。

### ビデオ資料 (関連ビデオ→ 安全情報部会について)

※ビデオを見てどのような情報を発信すればよいかまとめてみましょう。

### 携帯電話での連絡網

携帯電話のメールは、活動の予定を連絡したり、地域の情報を伝えたり、情報伝達をすばやく行えるというメリットがあります。また、情報誌と同じように地域の情報を載せたメールマガジン（メールを使った新聞、読物）を配信し地域に発信することもできます。自身の活動する地域の状況に合わせて導入してみるとよいでしょう。

### Column

#### Web ページを作ってみよう

活動をする団体の活動内容やプロフィールをまとめた Web ページを作成してみましょう。BBS（電子掲示板）やメールを使えば、インターネット上での連絡窓口になります。